

国際情勢と条約改正の関連を、ランキングを通して、考察することができる。

(1) アジアの列強をめざして 教科書 P. 176~177

◇イギリス・ドイツ・アメリカ・フランス・ロシアなどの は
資源や市場を求めてアジア・アフリカへ進出。
しだいに軍事力を強め植民地支配を行う。

資源や市場を求め、軍事力で
植民地支配を広げる動きを進
める考え方や政策を

課題：A～Cを、領事裁判権の撤廃に影響をあた
えたと思う順にランキングしてみよう。

A. この当時、イギリスはロシアと対立していた

B. 日本が条約改正に努力を続けたこと

C. 日本が憲法や法律を制定したこと。

まとめ 個人の第1回目の判断

一位

二位

三位

その理由

朝鮮をめぐる争い

◇日本と清の対立

◇朝鮮国内では親日派と親中派が激しく対立。甲午事変（親日派が武力で政権を
にぎろうとしたが失敗した事件）で日本が不利となる。

◇帝国主義が広がる中、朝鮮に進出しなければ、日本の発展も望めないという主張
が強まる

◇「脱亜論」（アジア諸国と連携しないで日本の欧米化をめざす考え）が登場

ふりかえり 第2回目の判断

一位

二位

三位

その理由

①第1回目の判断を書くことができましたか？ （ はい ・ いいえ ）

②班内で最低一回は自分の意見を伝えましたか？ （ はい ・ いいえ ）

B. 日本が条約改正に努力を続けたこと

の資料 (教科書P. 177年表の補足)

等島宗則は

当時、日本国内が財政難だったので、日本の経済を少しでもよくするために、関税自主権を回復させたかった。関税自主権の回復のために諸外国と交渉し、アメリカの同意を獲得したが、イギリスなどの反対により不成立に終わる。

井上馨は

領事裁判権の撤廃と輸入関税の一部引き上げの代わりに、外国人裁判官を任用して、居住権・所有権を認めようとした。また、日本は文明国であることをアピールするため、鹿鳴館に欧米人を招いて舞踏会を開くなどの **欧化政策** をとった。しかし、いずれも日本国内から批判をあびる。

1886年、イギリスの貨物船が和歌山県沖で難破・沈没する。
イギリス人は全員救出されたが、日本人は25名が全員水死した。

領事裁判権の撤廃を求める世論（多くの国民の意見）が高まった。

大隈重信は

「領事裁判権の撤廃の代わりに、**最高裁判所のみ** 外国人裁判官を任用すること」でイギリスと交渉しようとしたが、このことがイギリスの新聞に載る。その後、大隈はこれに反対する人々に襲われ交渉が中止。

青木周蔵は

外国人裁判官を認めずにイギリスと交渉していた。交渉はうまくいっていたが、1891年5月に日本を訪問中のロシア帝国皇太子が、滋賀県大津町（現大津市）で警備にあたっていた警察官・津田三蔵に突然斬りつけられ負傷した暗殺未遂事件がおこる。日本が武力報復されかねない緊迫した状況下で、青木は大臣を辞任する。

陸奥宗光は

1894年イギリスと **日英通商航海条約** を結び、領事裁判権の撤廃に成功。その後、他の欧米諸国とも同様の内容の条約を結ぶことに成功。